

まちかど アルバム



市民総合相談窓口

お気軽にご相談ください

1月4日(木)、市民総合相談窓口を市役所本庁舎、駅南庁舎、各総合支所に開設しました。これは、市の業務全般に関する相談を総合的に受け付け、市民が抱える問題の解決に当たる窓口で、「どこに相談したらよいか分からない」といった市民の声に応えるため設置したものです。「決してたらいまわしをしない」を合言葉に親切で行き届いた対応に努め、みなさんに気軽に利用してもらえらる窓口を目指します。また、市の業務以外の相談にも解決に向けた支援を行いますので、お気軽にご相談ください。

鹿野ゆめ本陣

地域の子どもたちに正月遊びを伝承

1月8日(月)、城下町鹿野の町屋を改装して作られたまちづくりの活動拠点施設「鹿野ゆめ本陣」で、「七草がゆと竹細工教室」が開催されました。竹細工教室では、昔の正月遊びを今の子どもたちに伝えようと集まった地域のみなさんの指導により、子どもたちが竹とんぼとカッコー笛を製作。はじめは、小刀の使い方もぎこちなかった子どもたちでしたが、徐々に慣れ、完成した作品の出来を喜んでいました。竹細工で遊んだあとは、参加者全員で七草がゆをいただき、今年の無病息災を祈願しました。



佐治町 B&G 海洋センター

初めてのユニカールに歓声

12月21日(木)、「第1回 B&G ユニカール大会」が佐治町 B&G 海洋センター体育館で開催されました。ユニカールは、氷のない場所でもカーリングを楽しめるようにと考案された競技で、特殊なカーペットの上でストーンを投げて競い合います。地元佐治チームは、平成18年鳥取県大会で男子が優勝、女子は準優勝の実績があります。この日は住民のみなさんにも広くこのスポーツを体験し、楽しんでもらおうと参加者を募ったところ、小学校2年生から70歳代まで幅広い参加がありました。参加者は思うように滑らないストーンに一喜一憂しながら、力よりも技と作戦が勝敗を左右する「ユニカール」を楽しみました。



県民文化会館

因州和紙の消費拡大に一役

1月6日(土)、書道用の高級画仙紙として日本一の生産量を誇る因州和紙を広く知ってもらおうと、「因州和紙新春書初め大会」が県民文化会館で開催されました。大会には、小・中学生、一般の約200人が参加。大会審査委員長を務めた鳥取書道連盟会長の柴山抱海しばやまほうかいさんが縦8メートル、横3メートルの巨大な紙に「開春」と紙面一杯に書いた後、参加者は「だいせん」、「お年玉」など学年ごとに与えられたお題を書きました。若い世代の書道離れや中国から安価な画仙紙が輸入されることにより因州和紙の売り上げは年々減少しているとのことで、大会実行委員のみなさんは「こういった機会を通じ、子どもの頃から書道に親しんで欲しい」と話していました。

